二〇一三年三月一六日

下萌に紙飛行機の着陸す　さつき
囉声の一人は女桜鯛　よし女

二〇一三年三月一五日

カーナビは旧道が好き山笑ふ　うつぎ
山頂の巨大風車に風光る　せいじ
卒業子見守隊へ感謝のぶ　満天

二〇一三年三月一四日

陽炎ひて白線歪む野球場　宏虎
蜷の道思案の如くうろうろす　よし子
里の山トンネル抜けるたび笑ふ　うつぎ
銀嶺を左手に右手に青き踏む　菜々

二〇一三年三月一三日

波白く尖る海峡霾ぐもり　わかば
菜箸の焦げるは宜と目刺し焼く　有香
さへずりの他に音無し布留の宮　なつき
園うらら楽譜の碑より曲洩るる　よし女

二〇一三年三月一二日

綾なして風の意にそふ糸柳　よし女
復興を祈り続けて春を待つ　ぽんこ
吾が庭に来て存問の初音かな　うつぎ
初花へ寄せたる母の車椅子　わかば
桜草咲かせベランダ明るうす　はく子

二〇一三年三月一一日

蕗味噌の出来は上々一人酌む　うつぎ
手に汲めば袖口つたふ春の水　よし子

二〇一三年三月一〇日

春疾風ダム湖は尖る波の原　よう子
ひと茹でにさみどりと化すめかぶかな　満天
大荒れの春北風バイクなぎ倒す　有香
神杉の参道つづる花馬酔木　ひかり
碧天の風に乗りたる揚雲雀　宏虎

毎日句会みのる選・二〇一三年三月一八日